

### 第3回 第2次石垣市観光基本計画素案検討会

#### 議事要旨

日 時	令和4年1月19日(水) 13時00分～15時30分
場 所	石垣市役所大会議室1・2
出席者	<p>越智 正樹 会長(琉球大学 国際地域創造学部 教授)</p> <p>高橋 秀明 副会長(石垣市観光交流協会 副会長)</p> <p>山田 桂一郎 委員(JTIC. SWISS/観光カリスマ、内閣官房クールジャパン検討委員)</p> <p>大堀 健司 委員(石垣島アウトフitterユニオン会長)</p> <p>鈴木 達也 委員(八重山ダイビング協会会長)※竹内様(代理出席)</p> <p>西村 亮一 委員(石垣島クリエイティブフラッグ代表理事)</p> <p>平良 佳子 委員(石垣市織物事業協同組合代表理事)</p> <p>根原 工 委員(株式会社石垣島物産公社専務取締役)</p> <p>赤池 進 委員(JA ファーマーズマーケットやえやまゆらていく市場店長)</p> <p>伊良皆 誠 委員(音楽創造都市石垣推進市民協議会代表)</p> <p>黒島 剛 委員(映像工場代表取締役社長)</p> <p>鈴木 信高 委員(石垣市観光交流協会 事務局長)※前任者辞職に伴う新規委員</p> <p>金城 徹 委員(八重山ビジターズビューロー専務理事)</p> <p>通事 太一郎 委員(竹富町世界遺産推進室長)</p> <p>山本 以智人 委員(環境省石垣自然保護官事務所上席自然保護官)</p>
事務局	<p>玻座真、前盛、向井(観光文化課)</p> <p>井芹(ランドブレイン株式会社)</p>
欠席者	<p>新城 和彦 委員(八重山漁業協同組合 参事)</p> <p>岩倉 千花 委員(八重山ヒト大学副学長)</p>

<会次第>

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事
  - (1) 関係資料説明
    - 第2次石垣市観光基本計画素案
  - (2) 意見交換
- 4 その他
  - (1) 次回開催予定
- 5 閉会

<配布資料>

- ・資料1：第2次石垣市観光基本計画素案
- ・資料2：第2次観光基本計画素案作成に係る論点整理表
- ・参考資料1：第2回第2次石垣市観光基本計画素案検討会議事要旨

○議事内容

- ・第2次石垣市観光基本計画策定に係り、上記の次第に基づいて第3回第2次石垣市観光基本計画素案検討会を行った。

【以下、発言要旨】

越智会長 本日は全 4 回ある委員会のうちの 3 回目となった。前回の最後に課長からありました通り、素案の詳細内容をご確認いただきたい。今までは概要という感じでしたが、詳細の資料が出てきたので、これをたたき台としてご議論いただきたい。次回はほぼ完成版としてブラッシュアップしたものを提示し、確定していく予定である。素案すべてに目を通していただきたいが、今回は強弱をつけてご意見をいただきたい。今回は 1 時間程度、課長から説明いただき、後半の時間で皆様からのご意見を頂く予定である。意見交換の前半では、どの観点からでもいいのでご意見を伺いたい。委員の皆様には社会の中の様々な分野からお越しいただいているので、それぞれの関心や関係のある箇所に関してご意見いただきたい。意見交換の後半部分では、資料 1 の 53 頁の KPI・KGI を練り上げないといけないため、具体的な施策をどのような指標で評価していくのか、専門の〇〇先生にアドバイスをいただき、皆様からも指摘いただきたい。

事務局 (前盛) ・配布資料の確認を行った。

事務局 (玻座真) ・会次第に沿って、資料 1 を説明した。

～以下、資料説明に対する質疑応答～

越智会長 気になる点が 2 つあった。  
1 つ目は、玻座真課長の「このような気持ちでこのように記載した」という発言が多かったが、思いや思想というのは非常に賛同するものの、向こう 10 年の計画であるというところで、その思いを文章化しないといけない。

資料 1 の 26 頁に記載されている「地球市民」や「観光まちづくり」というメッセージで、事務局側の考えは理解しているが、「地球市民として」というところは、あくまでも観光事業のみを考えたところであり、「観光まちづくり」の計画であることが最後まで徹底されていないと感じた。資料 1 の 54 頁の「KGI」というところが観光の経済効果のみの話であり、まちづくりではなかった。また、個々の施策をみても、まちづくりに直結するところはほぼ見当たらなかった。

資料 1 の 59 頁にある「観光地経営戦略会議」では、様々な方が自分事として参画すると説明されたが、そのような市民を含めた様々な方に参画して頂き、中核として連携する組織がなぜ観光まちづくりではなく観光地経営なのか。最後まで観光まちづくりとして、地球市民であるということを徹底しないといけないと思う。

2 つ目は、資料 1 の 30 頁に細かい施策があったが、施策というよりも個別の事業のアイデア出しに思えた。ロケーション×エンターテインメントなどアイデア出しのレベルのものを 10 年の計画に記載してもいいのか。個々の事業の頭出しとしてはいいが、施策としては包括的に整理し、施策内容にするべきではないか。資料 1 の 43 頁、「04 主要エリアと誘導方針」に出てきたが、今後 10 年の計画で、主要エリアとして限定していると感じられてしまうため、計画には記載せずに、別表、別資料、付属という形にするのがよいと思う。

越智会長 今回は第 3 回なので修正案までの合意を取ることは難しいため、修正については第 4 回に向けて事務局と私で事前に打ち合わせて修正していきたい。参考として修正して欲しいというような皆様からのご意見、要望をよろしく願います。

〇〇委員 質問として、最初の半グレの話について、私たちも苦勞しているが、その問題に対する施策がよくわからなかった。

意見として、資料 1 の 29 頁の「基本方針」で挙げられている「温暖化対策、脱炭素

に向けた取り組み」に対しての「基本施策」が「円滑なモビリティの導入」のみというのは今の時代には適切ではないと思う。私たちが行っている「エコツアーを推進する」ことも取り組みではないだろうか。石垣島まつりでは、プラスチック容器を無くす取り組みを早くから始めており、他の市町村に比べると進んでいると思う。ホテルや飲食店でも取り組んでいる事業者もあるため、付け加えてもいいと思う。

事務局 (玻座真) 最初の半グレに関する説明では、基本目標の「3 社会」に入るので、資料 1 の 33 頁の「基本方針 4：観光振興を阻害する脅威（リスク）」に対応する。

施策にレスポンシブルツーリズムの推進という大きい枠組みであるため、条例化の検討などが入らないといけないと思った。

温暖化では、現在のご意見として取り入れ、今後取り組みを進めていく。

越智会長 資料 1 の 33 頁の「基本方針 4：観光振興を阻害する脅威（リスク）」の人為的な理由として半グレをイメージされていたが、資料 1 の 39 頁にある⑩レスポンシブルツーリズムの推進は半グレのことをイメージしたものにはなっていないため徹底すべきである。33 頁の「人為的な理由」はオーバーツーリズムのことだと思っていたので、分かりやすく記載すべきである。

〇〇委員 全体的な話では、それぞれが思い付きの羅列に見えるので整理した方が良いと感じた。

資料 1 の 26 頁 27 頁の理念に記載されている、「地球的課題解決」や「地球市民」、「地球の未来」という表現において、この計画で地球という広い目線を求めてもいいのか。より市民目線でないといけないのではないかと思う。石垣市民全員が地球市民という感覚を持っているとは思えない。理想像はあってもいいが、現実と乖離してしまっているのではないかという印象を受けた。

理念では前回の現行政策 3 でいいのではないかという話があったように思える。前回の理念の方が良いのではないかと思う。

事務局 (玻座真) 前回の計画が作られた状況と今回の計画が作られる状況、10 年後に変わっていく世界状況を考えた際、石垣市を重点的に考えているが、石垣市に流入される方々は地球市民であるという意識をもっている方々はあると思う。石垣市もそのような方とつながりたい。石垣市のみを発展させたいということではないといったメッセージは発信した方がいいのではないかと思う。2010 年（平成 22 年）に空港ができる前と現在では、理念に流れている源流は同じだが、発信したいメッセージは異なる。「地球」という表現は検討の余地があるが、地球的な意識を持っている方々が石垣で会うという意識を持っている。10 年後にはそのような人が集まり、コミュニティが生まれるのではないかという発想で記載した。

越智会長 観光だからこそ地球という表現は賛成している。外部から来る人に対して、ローカルな人間としてのホスピタリティではなく、同じ市民として、地球的、世界的な観点から石垣の価値というものをみんなで認識して関わっていくという考え方は、「観光まちづくり」としていいと思う。

しかし、地球という大きな理念を建てたので、これを受けるような施策、石垣市民全員が既に地球市民としての自覚を持っていることはないと思うので、これを観光まちづくりの中で一緒に作っていく、その上で自然や文化の誇りを醸成することを施策に反映することが重要である。シビックプライドの推進は観光まちづくりとして一番重要である。シビックプライドを石垣で世界的な観点を市民に誇れるべきものなどを再確認浸透させる。シビックプライドに地球市民を直結させる。シビックプライドは「社会」に位置付けるのではなく、人を育てる「人材育成」に参加していくと最初から繋がるのではないかと思う。

越智会長	<p>資料 1 の 28 頁の (4) 「ビジョンの実現に向けた分野ごとの基本目標」という大きなビジョンがあった中で、玻座真課長はそれぞれあえて観光まちづくりとして記載していると仰っていた。</p> <p>しかし、環境分野の「健康で快適な生活のための良好な環境を創る観光まちづくり」はあくまでも生活環境の話で、まちづくりとしては大事だが、地球規模で地球市民として考えたときに、環境は市民の生活環境のみではなく、世界的規模でみたところの石垣の自然環境についても反映させるべきではないか。</p> <p>ここで環境分野の諸施策をご覧になってお分かりだと思うが、〇〇委員はどうお考えであるか。</p>
〇〇委員	<p>同じことを思っていた。細かい基本目標の中で環境を一番に並べてくれたことはありがたい。しかし、生活環境だけではなく、SDG s にもある通り、地球の資源は有限なので、持続的に活用し発展しなければならない。自然環境と共生しなければ観光経済にもならないため、「自然との共生、及び健康で快適な生活のための-」と記載するのが好ましい。</p> <p>資料 1 の 28 頁(4) 「ビジョンの実現に向けた分野ごとの基本目標」で環境分野・経済分野・社会分野は SDG s に関連するものである。どれか 1 つを達成するのではなく、トータルで持続的になっていることが重要である。温暖化対策でモビリティを増やすだけではなく、普段はツアーで車を利用していたが、移動を自転車にすることも温暖化対策である。基本目標を個別に発展させる施策ではなく、経済を活性化させると同時に環境にも優しい施策であるようなことが大事だということ表現したい。</p> <p>基本目標から個別に基本施策が対応しているが、資料 1 の 30 頁の基本施策「持続可能なまちづくり」では様々な分野に関わっている。様々な政策や基本目標に関わるものなので、1 対 1 で必ずしも基本目標と基本施策に対応させなくてもいいのではないかと思う。環境分野に対してこれしかないのではなく、いろんな分野が環境に対して貢献しますというような表記にしたい。</p>
越智会長	<p>1 点目の「自然との共生」はおっしゃる通りで、後ほどの KGI と関わってくるので、ぜひとも入れるべきだと思う。</p> <p>2 点目は、施策は環境にしかではなく、経済にも関わる点で無理に環境のみに入れてしまうのは無理があることである。しかし、評価をする際に二重記載をすると、1 つの事業がありその成果のうち、〇〇%が環境の成果で〇〇%は経済の効果と順列していくことは、かなり難しい。作業的コストを考えた際、1 つに対して 1 つの対応になるが、KGI はだからこそあるのだということ言いたい。</p> <p>事業を複数箇所に記載するのは市民には、実感しやすいのでありではないか。また、評価は厳密にはしなくてもいいと思う。〇〇%が環境に関わり〇〇%が経済に関わるというのはあまり関係がないかと思う。</p>
事務局 (玻座真)	<p>体系図を書くのは、様々な方に見てもらい、連携していきたく、役立てたいからである。現段階では、1 つの施策が 1 つの方針にのみ対応ということはない訳で、そこをどのように記載するかは、次回までに整理をしていきたい。</p>
〇〇委員	<p>全体的にはいいと思うが、気になる点が 2 つあった。</p> <p>1 つ目は、資料 1 の 30 頁の一番下の「地域一丸となった観光まちづくりの推進」において、「地域一丸となって」という表現はいいと思うが、観光業者と観光業ではない方を考えると、観光で経済効果をどれだけ出せるのか、観光業ではない方もどれくらいの経済効果を受けるのか地域にできる方向性を考えた方がいいのではないか。「地域一丸となって」は観光業ではない方々はどうなのかなと思う。観光業ではない方々でも、道案内や運転時の気遣いなど観光客へ配慮はあるが、地域の方々にも経済効果が</p>

---

起こる何かがあればいいと思う。

環境も守れば観光が元気になる石垣になり、市民も幸せになるなどの、何かテーマを決めて作ってあげれば面白いのではないかな。

2 つ目は、郷土芸能などの演出に関係することだが、文化を見せる場所が無いことである。雨の日に八重山芸能を観るような場所を作りたい。踊りや歌をみせながら、ご飯を食べるというものは難しい。行政の力を借りて維持をしているが難しい。観光客を引き寄せるのに月 2 回の公演では、弱いのではないだろうか。芸能の提供を 10 年間で出来るようにしていきたい。市役所の跡地利用が話題になっているが、一等地で大きな場所を観光でも使えれば、いろんな考え方ができるのではないかな。

---

事務局  
(玻座真)

資料 1 の 30 頁の補足をする。「市民協働の観光まちづくり」というタイトルは変わるかもしれないが、「観光貢献度の見える化指標設定」や「市民幸福度意識調査」「経済波及効果」を取り上げている。一方で「地域一丸となった観光まちづくりの推進」は対になっている。波及効果として見える化されるため、市民も参加しやすい環境を創っていくという施策として連動している。多くの市民が観光事業としてではなく、ホスピタリティとして行っていることは、たくさんあり、石垣に来た時に感じるぬくもりなどを醸成していきたい、それを指している。どうしても、仕掛けは必要であり、仕掛けを施策として記載している。

芸能に関しては、悪天候時に楽しんでいただく音楽・芸能・体験などのコンテンツは重要である。取り組みはしているが、案内不足ということが問題である。しかし場所に関しては、場所が整備されていないとできないという話だと計画は進まないもので、できることを先に取り組むことも必要である。旧市役所跡地に芸能ができる施設ができるかは、要望はしているがまだ不透明である。

---

〇〇委員

石垣市は八重山観光の窓口になるため、窓口や玄関口になるという表現がないのが気になった。資料 1 の 39 頁⑮「持続可能なまちづくり」の〈具体的施策〉にある「世界自然遺産玄関口としての取り組み」のみであった。八重山圏域の中心地、玄関口として、竹富町・与那国町と連携して取り組むという記載が無いため表現できればいいと思う。

関連して、資料 1 の 30 頁の基本施策「顧客満足度の向上」には石垣空港に関する記載はあるが、石垣港離島ターミナルも環境改善を記載いただきたい。観光客が一番訪ねるところなので、入れて欲しい。

市役所の跡地利用で観光の視点として活用していこうという提言を記載したらいいのではないかなと思う。

資料 1 の 30 頁「基本施策」の「長期滞在型観光の振興」に関して、ワーケーションの取り組みなども記載するのが良いと思う。また、石垣市はスポーツツーリズムについても取り組んできたので関連するところに記載した方がよいのではないかなと思う。

資料 1 の 28 頁「基本目標」の①「環境」では、「持続可能な環境の維持向上」というような表現でもいいのかなと思う。

元号と西暦の表記の統一をすることも必要である。

市民に広く理解してもらう事が重要なので、誰が読んでもわかるように専門用語やカタカナ用語に注釈をつけてほしい。

また、具体的施策の SDG s に関わるものが多いため、該当する SDG s のマークがあれば浸透しやすいのではないかな。

---

事務局  
(玻座真)

離島ターミナルについては、関係のところでは考えていたが、滞在が始まった時、スムーズに移動できる案として、バスや移動サービスを円滑にするという点では施策で組み込みたいが、離島ターミナルの建物としての利便性の向上についての所管は建設

部になるので記載するかは検討する。

跡地利用については、外部からの提言に対し、市が環境を整え、後押しするような形になればいいと考えている。

スポーツツーリズムについては、どのように入れるか整理が必要である。誘客の1つのコンテンツとしてスポーツを入れる必要があれば入れていく。

注釈や元号は最終的にチェックを行う。

越智会長

具体的施策では「〇〇に関する取り組み、立案、実践」などと包括的に記載していけばいいと思う。資料1の38頁のように、例えとして記載し、細かいものは書かないでもいいのではないかと思う。

観光業種ではない人が重要になり、観光まちづくりの「みそ」になる。観光事業の施策はもちろんとし、観光事業者以外の市民に向けて、まとまった施策でないで、市民は結局何を振り分けられているのかわからない。まずは、シビックプライドとして、ホスピタリティを発揮したい市民の方々の意見を積極的に受け止めてほしい。一方で観光事業ではない人に経済波及が不透明なままホスピタリティをしてほしいというような、甘えて成り立つ観光地では持続可能にはならないので、レスポンシブルツーリズムとして、どのようなものとしたらレスポンシブルツーリズムの実践になるかという仕掛けをいろんな分野からの連携を考えてほしい。

シビックプライドの醸成、レスポンシブルツーリズムの具体的な仕掛けづくりが観光まちづくりのみそなので、再整理が必要である。

資料1の28頁の基本目標の達成度を測るのはKGIと理解している。KGIのあり方や考え方。どのように考えたらいいかを〇〇委員からご意見を伺いたい。

〇〇委員

KGIの話をする。細かいものを整理するために基本方針があるので、設定をすることにより整理がつく。KGIの日本語訳は重要目標達成指標というが、ゴールなのに目標であるため、私は敢えて目的と書くことも多い。

観光基本計画の最大の目的は何か。KGIは数字で表すのが大前提なので、所得や生産をいくらにするかというのがKGI。売上目標になる。そのために、単価をどう上げるかを考えることがKPIである。

今後の事を考えると、KGIとKPIを考える際、取り組みを整理しなければいけない。

KSL（重要成功要因）優先順位を整理していくと、意見で決めることもできるが、相当時間をかけて内部環境を知ることができないと、優先順位は決めることができない。

(閉会)

